

下野市立石橋小学校

1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成
～対話的な学びを通した深い学びの実現をめざして～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校では、昨年度までの3年間は、重点教科を算数として研究を進めてきた。児童の主体的な学びにつながるよう単元計画の見直しを進めたこと、「対話的な学び」が実現している姿はどのようなものか学校全体で共有を図ったこと、児童の考えをつなげる教師の役割の重要性について確認をしたこと、普段の授業改善へ生かそうという意識をもったことは成果といえる。しかし、児童の「深い学び」を目指す取組は、まだ十分な成果に至っていないといえる。

そこで本年度は、昨年度のテーマを引き継ぎながら、国語科を中心とした研究を基盤として、その他の教科を含む日頃の授業を充実させ、職員自身が協働的な学び合いを展開できるよう授業研究を推進していきたい。

(2) 研究の仮説

児童が興味関心をもつことができる言語活動を設定し、その単元の中で、話し合う必然性や必要感をもたせる場の工夫を図ることで、児童が自分の考えをもって意欲的に学習に取り組むことができるであろう。

3 研究内容

(1) 研究の方法

- ① 研究教科を国語とし、学校課題追究のため、授業改善の視点を絞って研究に取り組む。
- ② 低学年・中学年・高学年の3つの部会を設け、児童の発達の段階に応じた授業実践を行う。
- ③ 昨年度末の学力調査、とちぎっ子学習状況調査の調査問題の分析を実施し、学年ごとの課題を設定する。共有された授業改善の視点を基に、教師一人一人が日々の授業の質を高める。各自が、自主的公開も含め、研究授業を年間1回公開する。
- ④ 授業研究会の充実を図る。

- ・ 外部講師を招く授業は、ブロックでの指導案検討や学年での事前授業を行い、授業研究会の質を高める。
- ・ S&Uコラボ事業を活用し、外部指導者の指導を受ける。
- ・ 授業後の協議では、KJ法を取り入れ視点を明確にした振り返りを重視する。ワールドカフェ方式で意見を共有し、自由に話し合える雰囲気作りを心掛ける。



(2) 研究授業を通した主題への取組

日時	形態	学年	単元名等	課題追究のための手立て等
11/2 11/11	S&U事業	1年	国語「じどう車くらべ」	・対話の中で語られる児童の言葉を、有機的につなぐ教師のコーディネート力
11/18 11/20 12/2	自主公開 自主公開 S&U事業	6年	国語 「筆者の考えを読み取り、社会の生き方について話し合おう」	・批判的思考力の育成（自分の考えや意見をもたせるための手法） ・交流の場でのICTの活用

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 昨年度末の学力調査、本年度のとちぎっ子学習状況調査の分析を基に、授業提案ができた。「つまずき」の原因を考察し、単元構成の見直しに生かした。言語活動の設定においては、総合的な学習の時間と国語科の授業を結びつけるなど、児童が目的意識を明確にもって、学習に取り組めるよう工夫をした。その結果、単元の終末において、できるようになったことを実感している発言や、今後の課題に気付き振り返りカードに記述する姿が見られるようになってきた。今後も学習に向かう意欲を向上させていきたい。



- ② 「一人一授業」の共通実践の下、互いに日々の授業に課題意識を持って取り組み、多くの授業を参観し研修できた。低・中・高のブロック部会において、お互いの学年や単元の系統性等の理解が進んだ。研究の単元を学年で統一したことで、単元の内容や時間のまとまりの中で指導内容のつながりを意識しながら見直しを進めることができた。

- ③ 自主公開授業を、月曜日と水曜日の5時間目に位置付け、事前に周知することで全職員がブロックの枠を超えて、授業を参観することができた。本年度は「読むこと」の説明的文章を中心に授業研究を進めたので、自主公開の時期が重なり時間調整が難しい部分もあったが、全学年の授業を見渡せたことは、自分の学年で何が大切なのかを再確認することができ、授業改善を進める上で大変意味があった。



- ④ 昨年度に引き続き、学力向上推進リーダーからの助言をもとに授業のゴール（目標を達成した子どもの姿）を具体的にイメージし、授業の組立を考えたことで、めあてと振り返りに一貫性をもたせられるようになってきた。



(2) 研究の課題

- ① 本年度は事前授業の段階から、ブロックの枠を超えて、授業者とアイデアを考えるなど自主的に協力し研修を進めることができたが、今後は、職員の数や年齢構成の変化に伴い、組織作りの工夫が求められる。
- ② 新学習指導要領のめざす方向性や、国語科の「読むこと」の構造と系統についての理解が進んだが、児童の実態は、前学年までの学習内容の定着を確認しながら授業を進めている現状がある。そこで、学習内容が確実に定着できるよう国語科に重点を置いて、教材研究や授業改善に取り組んでいきたい。